

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 理事長 大原 一憲
事業名	あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会事務局業務等委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	A
(2) 予定外のことにについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	A	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1) 事業に興味深く取り組むことができたか。	A	A
(2) 事業への取り組みを通じて達成感を感じられたか。	A	A
(3) 事業を通じて新しい展開やつながりをつくることができたか。	A	A
(4) 事業を実施するにあたり事務や準備を適切に行うことで、事業効果を発揮することができたか。また、互いに協力することができたか。	A	B

※事業：実行委員会の支援事業等

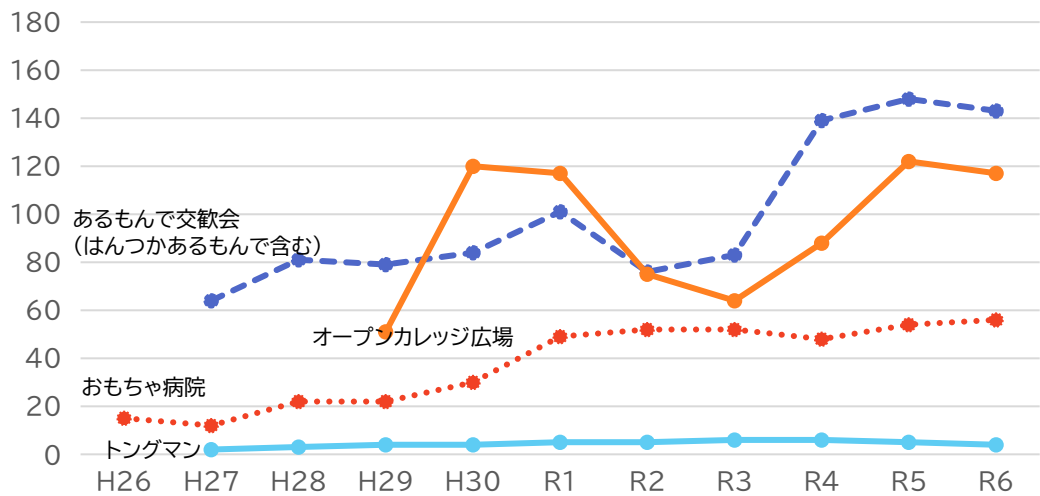
(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

項目	内容
1 評価指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、啓発がより進んだか。
測定方法	あまがさき環境オープンカレッジ主催活動・連携活動参加者数の増減により測定
結果	参加者数の推移 ※R2～3は新型コロナウイルス感染症の流行のため活動数が激減し、それに伴い参加者数も減少している。 ・エコあまフェスタを含む主催活動の参加者数の増加により、合計参加者数はR5年度より増加している。 ・昨年度同様、高校生が各ブースや受付の手伝いなどに参加し、世代間交流を深めることができた。 ・令和6年度の「エコあまフェスタ」は、時期と場所を変更し、立花南生涯学習プラザで12月での開催となった。当日出展されたのは35ブース（＋飲食6ブース）で、参加者は昨年より434人増加の1,156人であった。事務局ではエコあまフェスタ実施にあたり、次のとおり支援を行った。 ①事務局としてリユース食器の利用を促進し、補助制度を案内することで飲食ブース4団体の利用につながった。また、各団体との連絡・調整や、事前の打ち合わせを十分に行うことによって当日大きな問題なく開催することができた。 ②チラシやポスターの作成・印刷や各学校への配布など、より多くの市民に参加してもらえるよう工夫に努めた。

通年、一般向け活動の各回の平均参加者数



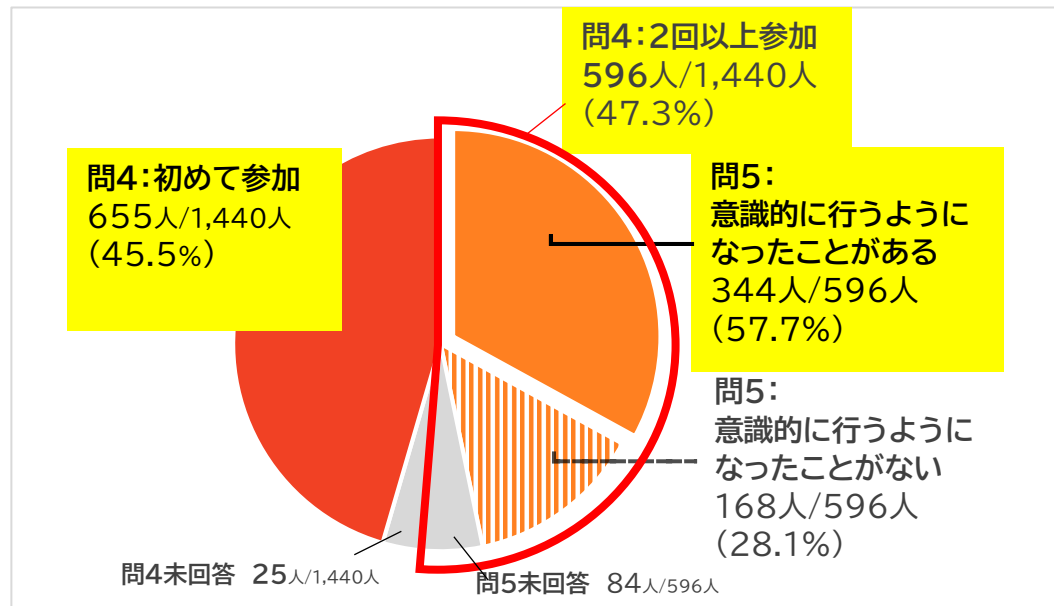
- ・オープンカレッジ広場、あるもんで交歓会、おもちゃ病院など、通年で広く一般に向けて行っている活動については、各回の平均参加者数はおおむね横ばいであり、地域での環境活動の場、市民同士の交流の場として定着していると考えられる。
- ・おもちゃ病院については、口コミでの来場や、リピーターもいるため、年々参加者は増加している。感謝されることが多く、ボランティアのやりがいにも繋がっている。市内はもちろん市外からの参加者も多く、より広い範囲への啓発につながっている。
- ・あるもんで交歓会は常連の参加者も増えてきており、市民からの認知度も上がってきている。また、常連の参加者が準備の手伝いをしてくれるなど、イベントを通じて新たな交流が生まれ、市民の居場所づくりにも貢献している。
- ・ゴミレスキュー隊・トングマンは2015年より活動を続けており、中にはオープンカレッジを離れても環境活動に参加されている方もいるなど、参加者の環境に対する行動変容につながっている。集めたごみが1tを達成するなど、継続して活動している成果が出ている。

2	評価指標 測定方法 結果	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたか。 主催活動アンケート問6について、環境に関連する6項目に「◎」「○」と答えた人の割合の増減により測定。 アンケートについて、令和6年4月1日から令和7年3月31日までを集計。総回答者数は1,440人となった。 ■アンケート問6「参加して感じた気持ちを◎、○、△、×で教えてください。」について 問6から、環境保全活動に関連する6項目をぬき出し、「◎」もしくは「○」と答えた人数を調べる。 環境にやさしい暮らしへのヒントが見つかった <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>228</td> <td>15.8%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>638</td> <td>44.3%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>25</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>485</td> <td>33.7%</td> </tr> </tbody> </table> 環境にやさしい暮らしに気を付けようと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>321</td> <td>22.3%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>622</td> <td>43.2%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>42</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>441</td> <td>30.6%</td> </tr> </tbody> </table> 環境のために自分にできることは何かを考えた <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>243</td> <td>16.9%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>615</td> <td>42.7%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>73</td> <td>5.1%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>479</td> <td>33.3%</td> </tr> </tbody> </table> 環境のことについてもっと調べてみようと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>165</td> <td>11.5%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>490</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>164</td> <td>11.4%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>571</td> <td>39.7%</td> </tr> </tbody> </table> これから実際にやってみたいことがみつかった <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>152</td> <td>10.6%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>483</td> <td>33.5%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>171</td> <td>11.9%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>570</td> <td>39.6%</td> </tr> </tbody> </table> 今日知ったことを人に話してみたいと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>237</td> <td>16.5%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>585</td> <td>40.6%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>100</td> <td>6.9%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>485</td> <td>33.7%</td> </tr> </tbody> </table>	Response	Count	Percentage	◎	228	15.8%	○	638	44.3%	△	25	1.7%	×	485	33.7%	Response	Count	Percentage	◎	321	22.3%	○	622	43.2%	△	42	2.9%	×	441	30.6%	Response	Count	Percentage	◎	243	16.9%	○	615	42.7%	△	73	5.1%	×	479	33.3%	Response	Count	Percentage	◎	165	11.5%	○	490	34.0%	△	164	11.4%	×	571	39.7%	Response	Count	Percentage	◎	152	10.6%	○	483	33.5%	△	171	11.9%	×	570	39.6%	Response	Count	Percentage	◎	237	16.5%	○	585	40.6%	△	100	6.9%	×	485	33.7%
Response	Count	Percentage																																																																																										
◎	228	15.8%																																																																																										
○	638	44.3%																																																																																										
△	25	1.7%																																																																																										
×	485	33.7%																																																																																										
Response	Count	Percentage																																																																																										
◎	321	22.3%																																																																																										
○	622	43.2%																																																																																										
△	42	2.9%																																																																																										
×	441	30.6%																																																																																										
Response	Count	Percentage																																																																																										
◎	243	16.9%																																																																																										
○	615	42.7%																																																																																										
△	73	5.1%																																																																																										
×	479	33.3%																																																																																										
Response	Count	Percentage																																																																																										
◎	165	11.5%																																																																																										
○	490	34.0%																																																																																										
△	164	11.4%																																																																																										
×	571	39.7%																																																																																										
Response	Count	Percentage																																																																																										
◎	152	10.6%																																																																																										
○	483	33.5%																																																																																										
△	171	11.9%																																																																																										
×	570	39.6%																																																																																										
Response	Count	Percentage																																																																																										
◎	237	16.5%																																																																																										
○	585	40.6%																																																																																										
△	100	6.9%																																																																																										
×	485	33.7%																																																																																										

環境保全活動に関連する 6 項目のうち 4 項目は、「◎」もしくは「○」と答えた参加者の数が半数を超えている。いずれも環境問題と自分の生活を結び付けて考え、行動することにつながる内容であるため、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動に参加することを通して、市民の環境意識を啓発し、行動変容を促すことができたと捉えられる。残りの 2 項目について、「◎」と「○」のと答える参加者を増やすため、より深く環境に興味を持ってもらえるような内容や仕組みを検討する必要がある。

■アンケート問 4「活動への参加は何回目ですか」

アンケート問 5「2 回以上参加した人は以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことはありますか。」について



・「初めて参加した」と答えた参加者は 655 人/1,440 人と、アンケート回答者の約半数近くとなっており、新たに多くの市民に環境活動に参加するきっかけを与えることができた。また、あまがさき環境オープンカレッジの活動に 2 回以上参加した人への質問では、以前参加した活動後に意識的に行うようになったことが「ある」と回答した人数は 344 人/596 人となっており、半数以上の参加者においてあまがさき環境オープンカレッジ主催活動への参加が行動変容につながったと答えている。

・事務局では、あまがさき環境オープンカレッジ環境情報誌の発行、市報への掲載手続き、ポスターの作成、コミュニティ連絡版への掲載依頼、チラシの作成、配布、HP での活動報告等、多様な媒体での広報により実行委員会の活動を支援し、広い範囲に向けての周知活動を行った。これにより、これまで環境に関心のなかった層や情報が届きにくかった層にもアプローチすることができ、イベントに参加するという行動変容、並びに、イベントから学んだことを実践するという行動変容につながったものと考えられる。

3	評価指標	市内で活動する環境活動団体や企業、行政等とのネットワークを広げられたか。																																																
	測定方法	これまでの連携団体数と新規連携団体数により測定																																																
	結果	連携団体数の推移 <table><thead><tr><th>年度</th><th>新規</th><th>既存</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>79</td><td>21</td><td>100</td></tr><tr><td>H27</td><td>54</td><td>75</td><td>129</td></tr><tr><td>H28</td><td>32</td><td>95</td><td>127</td></tr><tr><td>H29</td><td>38</td><td>91</td><td>129</td></tr><tr><td>H30</td><td>25</td><td>95</td><td>120</td></tr><tr><td>R1</td><td>24</td><td>99</td><td>123</td></tr><tr><td>R2</td><td>13</td><td>49</td><td>62</td></tr><tr><td>R3</td><td>17</td><td>66</td><td>83</td></tr><tr><td>R4</td><td>24</td><td>84</td><td>108</td></tr><tr><td>R5</td><td>23</td><td>100</td><td>123</td></tr><tr><td>R6</td><td>33</td><td>93</td><td>126</td></tr></tbody></table> ■ 新規 ▨ 既存 ・これまでの連携団体数は累計 401 団体で、令和 6 年度に新しく連携した団体は 33 団体である。令和 5 年度の新規連携団体数は 23 団体、令和 4 年度の新規連携団体数は 24 団体であり、新たに連携した団体の数は令和 2 年度以降増加傾向にある。 ・これまでに連携した団体には事務局からこまめに連絡や報告を行っており、様々な団体と長期的につながりをもつことができている。 ・エコあまフェスタ、打ち水大作戦、あまがすき通信への掲載、環境活動団体ミーティングにおいて、新たな企業との連携が多い。	年度	新規	既存	合計	H26	79	21	100	H27	54	75	129	H28	32	95	127	H29	38	91	129	H30	25	95	120	R1	24	99	123	R2	13	49	62	R3	17	66	83	R4	24	84	108	R5	23	100	123	R6	33	93	126
年度	新規	既存	合計																																															
H26	79	21	100																																															
H27	54	75	129																																															
H28	32	95	127																																															
H29	38	91	129																																															
H30	25	95	120																																															
R1	24	99	123																																															
R2	13	49	62																																															
R3	17	66	83																																															
R4	24	84	108																																															
R5	23	100	123																																															
R6	33	93	126																																															

3 総合評価

協働側面の評価

・お互い人員に限りがある中で、動き出しが遅くなってしまった活動もあった。エコあまフェスタや、ココドコエコ、ごみに関する講座など、もう少し準備期間があればより良いものができたように感じる。一方で、お互いに声をかけたり、助け合ったりしながら事務局としての事務や準備を行い、協力しあうことができた。また、問題や疑義が発生した際には双方連絡を取り合い、その都度相談して解決することができていた。

事業効果の評価

- ・主催活動への参加を通じて参加者の環境意識を啓発し、行動変容を促すことができた。
- ・主催活動「あるもんで交歓会」や「オープンカレッジ広場」「打ち水大作戦」について、活動場所周辺の地域住民への定着、環境意識の醸成を図ることができた。
- ・多くの活動はボランティアの協力により成り立っているが、高齢のボランティアが多いため、活動を長期的に継続していくには若年層のボランティアの獲得が必要。
- ・毎年新たな企業や団体、学校とのつながりが増えており、活動の内容に幅が広がっている。定期的にイベントや活動に参加してもらうことでつながりを維持していきたい。
- ・長年同じ内容でアンケートを実施しているため、アンケート項目の見直しについて検討が必要。

総評

- イベントの実施内容や事業内容については役割（強み弱み）をお互いに把握して、事前に事務局会議や実行委員会などで協議をしながら決めることができた。
- エコあまフェスタは場所や時期を変えて実施し、打ち水大作戦は各地域課の特色が出るように工夫するなど、協力し合いながら大きなトラブルや想定外の事態に陥ることなく無事に終えることができた。
- イベントや活動を通じて、市民への環境に対する意識の醸成や、市民同士の交流の場づくりにも寄与している。
- 今後もお互いに忌憚なく意見交換することで、魅力あるイベントや活動を計画・実施していきたい。